JA岡山 広報誌

パレット Palette

https://www.ja-okayama.or.jp/
JA岡山は、組合員募集中です!

since2000
地域によろこびの種をまく

9
2021 September
vol.253

特集「営農振興計画」最終年度の取り組み

～「意欲ある担い手の確保・育成」重点実施事項①～④の達成状況について～

農を担う
ブドウ農家　氏家 義太郎 さん
灘崎地区……10ページ

今月の折り込み　2021年9月号 カタログショッピング　ほか

「営農振興計画」最終年度の取り組み

「意欲ある担い手の確保・育成」重点実施事項①～④の達成状況について

令和元年度からの営農振興計画の基本方針と行動計画に沿って進めた取り組みを紹介いたします。

「ぶどう農業塾」での実地研修

意欲ある担い手の確保・育成

当組合では、「創造的自己改革の実践」の基本目標である「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」の実現にむけ令和元年度より新たに策定した「営農振興計画」を実践しています。

総合事業体としてJAの強みを活かした事業展開により、就農希望者への支援を行うとともに、農地集積や経営の複合化など担い手経営体への支援や事業提案を積極的に行い、「意欲ある担い手の確保・育成」に取り組んでいます。

関係機関と連携した各種事業を活用し、令和元年度は39名、2年度は40名が地域の担い手として新たなスタートを切ることができました。

ぶどう山椒せん定講習会

重点実施事項①

大規模農家の経営複合化・法人化の推進

経営安定や所得増大を目指し、水稲と露地野菜を組み合わせるなどの経営複合化等の推進を行い、管内の担い手農家に対し、関係機関による経営診断や法人化支援（37名）、経営セミナー（2回）などの支援をしました。令和3年度でも引き続き支援を行っています。

重点実施事項②

新規栽培者の育成と部会活動の活性化

新規就農者の育成において、岡山県主催の就農相談会（東京・大阪）に参加し、就農希望者との面談を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったため、県と岡山市の定例会議（7月・9月）へ出席し、新規就農希望者確保にむけて関係機関との情報共有を図りました。また、岡山県主催の「トータルサポート事業の面接会」ならびに岡山市主催の「新規就農相談会」へ出席しました（6回）。

「就農トータルサポート事業」では、令和元年度は10名、令和2年度は12名が就農にむけて研修を受けています。

部会活動の活性化として園芸品目の直売所講習会や女性部むけの講座、花きの研修会に取り組んでいます。女性部（10支部）では、農産物直売所や朝市への出荷むけに野菜、果樹の新規栽培者の育成支援を行いました。野菜：13回開催（226名）・果樹：4回開催（101名）。

「くだもの王国」岡山を代表する桃・ブドウの生産者の育成と産地の活性化、地域貢献活動の一環を目的に、「もも・ぶどう農業塾」を開講しています。塾では、JA職員が年間全10回のカリキュラムで栽培技術の指導を行い、令和元年度はもも塾10名、ぶどう塾21名、令和2年度はもも塾10名、ぶどう塾14名の参加がありました。座学講習と園地実習を通じて部会への加入や直売所への出荷を目指します。開講期間中

令和元年度備前地域集落営農推進研修会

一宮選果場果樹部会への視察（日本農業賞）

に塾生に対してほ場巡回を実施し、担い手の確保・育成を図りました。

重点実施事項③

新規就農者の受入体制整備と就農支援

地域農業の将来を担う人材の確保にむけて、関係機関との連携、協力を図りつつ、新規参入者やUターン者、定年帰農者等多様な担い手の確保育成に努めるべく岡山県の「就農トータルサポート事業」等での農業実務研修を管内各地区で行っています。野菜・果樹・花きの就農相談や研修制度の活用と受入体制の整備による円滑な就農支援を目的に、行政機関と連携し、研修受入農家の拡充の協議や空きハウス・貸付可能農地の斡旋ができるよう取り組み、新規就農者の地域での生活や経営に関する不安解消を図ります。新たな研修受入先として生産部会と関係機関が連携し、栽培開始予定のほ場の準備指導等の重点指導を行いました。

また、既存の園芸産地における新規栽培者の確保のため、関係機関と営農センターが連携し、各主要産地情勢の情報収集を行い募集チラシの作成・配布を行い、新規栽培者むけに生産部会への加入推進を行いました。研修会を開催し、野菜：12名、果樹：4名、花き：5名の方が加入しました。

新規栽培者むけ講習会（長船花卉部会）

野菜講習会（女性部足守支部）

今後も継続し、研修会の開催と、部会員募集の案内や新規栽培希望者むけに現地見学会を行う予定です。

重点実施事項④

集落営農組織の育成と活性化支援

集落営農組織において高収益作物キャベツなどの作付け提案を行い、品目の選定・取り組み方法について支援を行いました。また、農事組合法人に対して、新規品目の作付提案などの支援を行いました。

関係機関と連携し、生産者の意向に基づく低コスト農業と集落営農組織への転換にむけ提案・支援を行っています。

集落営農組織研修会へ参加し、情報収集を行い集落営農組織化にむけた情報発信に努めます。

備前地域集落営農推進研修会での発表

予告

ぱれっと10月号では、「営農振興計画」最終年度の取り組み「『販売戦略の強化と販売体制づくり』重点実施事項①の達成状況について」を掲載予定です。

農を担う vol.253

育った地のブドウを守り、若手生産者を増やしていきたい

氏家 義太郎さん

灘崎地区：ブドウ農家

「うじけ　よしたろう」
平成６年生まれ。㊟灘崎ぶどう部会所属。ブドウを栽培。祖父・祖母と３人家族。趣味はキャンプ。座右の銘は「日進月歩」。

7月21日、灘崎地区の氏家義太郎さんにお話を伺いました。

農業について思いを話す氏家さん

育った地を守りたい

―就農したきっかけは

わが家は祖父の代からブドウ農家で、子どものころは夏休みに出荷の手伝いをしていました。祖父が高齢となりブドウ栽培をやめると聞き、このままブドウ園が無くなってしまうのはもったいないと思い、5年前に就農しました。

―農業を始めてからは

日本農業経営大学校で農業経営について学び、祖父のブドウ経営を引き継ぎました。就農すると言ったとき祖父がすごく喜んでくれたことを覚えています。

現在は、40アールのほ場で、ブドウ3品種を栽培しています。ブドウをよりよい環境で生育するために、雑草対策としてわらを敷いたり、ブドウへの陽当たりが強いところは袋の色を変えるなど工夫をしています。

また、獣害を減らすために、袋の上に傘をかけ、ハウスの周辺や樹への侵入防止策にも工夫をこらしています。

祖父は自分の大先生であり、樹の状態を見れば、水が少ないとか樹が疲れているとか一目で分かるといいます。そのような祖父から知識や技術を教わりながら、どん経験値を貯めてがんばっていきたいです。祖父の教えの中に「ブドウによく耳をかたむけることが大切」という言葉があり、よく観察してブドウの変化を見逃さないようにしています。

―楽しいことは

ブドウの成長の変化が楽しいです。手をかければかけるほど変化していき、よいものができたときはやりがいを感じます。

若手生産者を増やしていきたい

―今後の抱負は

地域で若手の生産者を増やしていきたいです。家族で経営しているので、同僚や同世代の仲間がいないため、モチベーションを保つことに苦労しています。実習生の受け入れをしたり、地域の若い人に声掛けをしたりしています。地域の特産物を絶やさないために、ブドウ作りの仲間を増やしていきたいです。

また、今年度の収穫後にはシャインマスカットのハウスを新設する予定です。経営面積を拡大しながら、高品質なブドウを安定して生産し、いずれは祖父を超えるブドウ農家になりたいです。

聞き手：ＪＡ岡山広報担当

今年もよいものができています

収穫作業の様子

副梢管理も徹底しています

楽しい家庭園芸

2021.9

お問い合わせ先
営農部指導課
Tel.086(225)3224

野菜

秋冬に収穫する野菜の準備が始まっています

営農部指導課
宮本 大輔

●白菜の栽培

まだまだ夏の暑い日が続きますが、秋冬に収穫をする野菜の準備は始まっています。

冬の食卓には欠かせない白菜は8月下旬から9月上中旬に播種をします。品種によって播種時期や定植時期の適期が違うのでよく確認をしましょう。

白菜の生育適温は、初期は20℃、結球期は15～16℃、最低気温が5℃になると生育が止まります。播種が早すぎると、暑さのために苗の生育が悪くなり、逆に遅くなると気温が下がり結球に必要な外葉の生育が間に合わず、十分な葉数と葉の大きさが確保できないまま結球が始まり、球がゆるく小さい白菜になってしまいます。

●畑の準備

白菜の根は繊細で、深く数多く伸びるので、耕土を深く地力を高めておきます。また、土壌中の過湿には弱く、まとまった降雨による湛水で生育障害を受けないように、出来るだけ高畝にし、ほ場の排水対策をしっかりしておきましょう。

前作が終わりしだい堆肥を10平方㍍あたり25㌔、苦土石灰等を1㌔施用し深く耕しておきます。

播種または定植の2週間前には10平方㍍あたり野菜いちばん等を1・5㌔を土とよく混ぜます。

畝幅は1条植なら70㌢、2条植なら1・35～1・5㍍とします（資料1）。

●播種と育苗

白菜は直播き栽培も可能ですが、生育が揃う育苗がおすすめです。ビニールポット3号（直径9㌢）に3～4粒、セルトレイでは1粒播種し、風通しのよい日陰に置き、1・5日後に全体の半分程度の出芽が確認できたら、日の当たるところに出して白色の寒冷紗等のトンネルで育苗します（資料2）。

種子を複数播種した場合は、発芽揃のころに2株に、本葉2枚のころに1株に間引き、本葉4～5枚の苗を畑に定植します。

また、トレイやポットの土は乾きやすいので、夏場には毎日灌水が必要になりますが、灌水は午前中に行い夕方には表面がやや乾く程度に灌水を行います。夕方の灌水は最小限に行い、曇りや雨の日には乾いた部分だけ灌水します。

●定植後の管理

苗の定植は株間35～45㌢とし、深植えにならないように注意して行います。定植後にしっかり1～2回灌水を行い活着を促進します。定植時期は早生で9月上中旬ごろ、中生で9月中旬からが目安です。

追肥は、結球が始まるまでに外葉が大きく育つように生育を見ながら、10平方㍍あたり野菜いちばん等を500㌘ずつ2回施します。

1回目は本葉6～7枚のころ、2回目は結球が始まるころに、畝間に施肥し、その時に除草も兼ねて軽く中耕を行います。

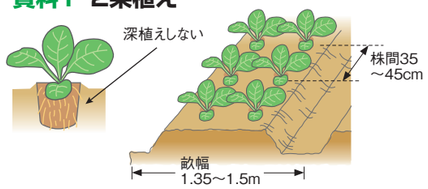
結球が始まるころまでは、土壌水分が必要となるので、土が乾燥しないように適度に灌水します。

定植後は、病害虫の発生に注意し、早めに防除しましょう（資料3）。

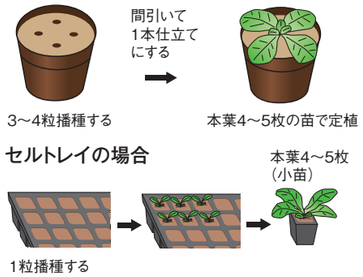
●収穫

白菜の頭部を手で抑えてみて、固くよくしまったものから順に収穫していきます。

資料1　2条植え

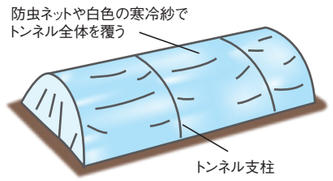


資料2　白菜の育苗



育苗中の害虫を防ぐ

育苗で害虫を防ぐには、苗床やトレイの上に播種直後から防虫ネットや寒冷紗をかけて管理すると、害虫の飛来を抑制することができます



※下に隙間があると、害虫が侵入しやすくなるので、しっかりと四方を土などで押さえておきます

資料3　防除

病害虫名	農薬名	使用薬量・使用時期／使用回数
アブラムシ類、アオムシ	ジェイエース粒剤	定植時1～2g／株／1回
アブラムシ類、アオムシ	スタークル粒剤	定植時2g／株／1回
アブラムシ類、アオムシ	アディオン乳剤	2,000倍／収穫7日前まで、5回以内
ナメクジ類、カタツムリ類	スラゴ	発生時1～5g／平方メートル
べと病、黒斑病	ダコニール1000	1,000倍／収穫7日前まで、2回以内

花き

害虫・病害対策をしっかりとしましょう

営農部指導課
中川 雄一

●花木・庭木の病害虫

8月末から9月にかけては残暑の中でまだまだ害虫が活発に活動します。また、しだいに涼しくなると雨も多くなり、病害も発生しやすくなります。

●うどんこ病

花木でよく発生するのは、バラ、サルスベリ、マサキ、ハナミズキなどです。また、カシ類などの葉に黄色っぽい斑紋が見え、裏側には濃い紫色の病斑ができる「紫かび病」もうどんこ病の一種です（資料4）。

うどんこ病の病原菌は、真夏の高温がやや苦手で、盛夏になる前の時期と、秋気温が下がり始めた時期に被害が広がります。そのため、発生している場合には、病原菌が活発になる前～活発になる時期の9月が防除の大切なタイミングになります。多発したものが1～2回の防除でなくなりはしませんが、この時期と来年の春から梅雨までに気をつけて防除することで被害を軽減しましょう。

樹木類で登録のある薬剤は、トップジンM水和剤、サンヨール、トリフミン水和剤、ショウチノスケフロアブルなどです。

うどんこ病の病原菌は多種有り、その多くは特定の植物に付き、他の種の植物には付きません（例外もあります）。

●ケムシ類

・アメリカシロヒトリは、6～7月に続いて、8～9月も発生しやすい時期で、大発生すると被害が大きくなります。孵化した幼虫はしばらくの間「白い巣網」を作って集団で居ますから、この時期に葉や枝ごと駆除するのが効率的です。

・サザンカ、チャなどのツバキ科の植物につき、時に大発生してニュースになることもあるチャドクガは、成虫の発生ピークが夏と秋にあると言われます。

食害もさることながら、全身に毒毛があるので注意が必要です。

葉の裏に生み付けられる卵塊も成虫の毒毛でおおわれ、幼虫の脱皮柄の毒毛に触れてもかぶれや皮膚炎を起こします。卵塊から成虫までいずれにも触れないこと、取り除くのは、長袖を着て枝ごと取って焼却するかビニル袋などに封入します（資料5）。

その他にもケムシ類が発生しますので、ディプテレックス乳剤など、樹木類等に登録のある薬剤を若齢幼虫のうちに処理しましょう。8月号でお知らせしたオオスカシバなどもまだ飛来します。ミノムシは早めに取り除きましょう。

●グンバイムシ

あまり知られていませんが、軍配のような形をした3～5㍉ほどの小さな虫が葉の裏にたくさん付いて吸汁し、葉の表面は白っぽく見苦しくなる被害が、実はたくさんあります。葉の裏も吸汁と排泄物でとても汚くなります。

・ツツジグンバイは、サツキ、キリシマなど、広くツツジ科を加害します。気温の高い時期に発生を繰り返し、初秋の時期も多発期です。間引きせん定などでできるだけ通気をよくするとともに乾燥にも気をつけましょう（資料6）。

アクタラ粒剤、同顆粒水溶剤、オルトラン粒剤、同水和剤、ダントツ水溶剤、モスピラン粒剤、同液剤など、つつじ類、樹木類に登録のある薬剤での防除が有効です。

・シキミグンバイは、シキミにのみ付く害虫です。

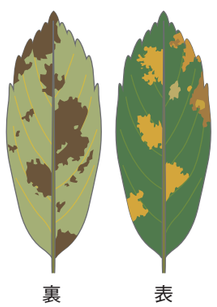
防除しないと、切り枝の商品価値を大きく損ねます。吸汁した葉に埋め込むように産卵するので、被害が限定的な場合は吸汁痕がある葉を摘み取ることも効果があります。

これまで防除していない場合、葉の裏を確認すると多発していることがあります。

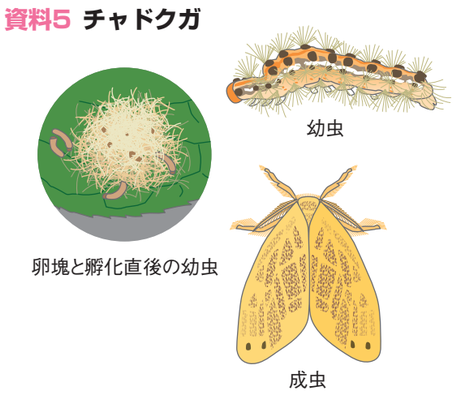
スミチオン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤など、樹木類登録のある薬剤で防除します。

・アワダチソウグンバイは、キクを始めキク科の植物に広く付くため、ヨモギなどの雑草にたくさんいて、それが栽培しているキクに飛来します。登録薬剤でアブラムシなどとともに防除する必要があります。

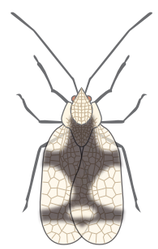
資料4　紫かび病



資料5　チャドクガ



資料6　ツツジグンバイ



果樹

台風による落果や落葉に注意してください

営農部指導課
武田 祐一

9月になるとブドウや梨の収穫が本格化します。一方では台風による強風や秋雨前線による降雨により果実の品質低下、落果や落葉が起こり、今年の果実被害だけでなく来年の生育まで影響する被害も懸念されます。まだまだ暑い日が続きますので体調管理には十分注意して作業を行いましょう（資料7）。

●礼肥の施用

収穫後のお礼肥

収穫後、樹は異常気象の中、果実を成熟させて体力を消耗しています。礼肥を施すことによって秋根の伸長を促し、根に貯蔵養分を蓄えさせることで、次年度の初期生育を促す効果が期待できます（資料8）。礼肥の施用後は灌水して肥料の吸収を助けてあげましょう。

ピオーネやシャインマスカットでは速効性の化成肥料（例：NN高度化成604など）を成木1本あたり1キロ程度、桃では樹の大きさにもよりますが、1本あたり500グラム～1キロ程度を施用します。

礼肥は樹の状態を見ながら施すことが重要です。葉色の濃い樹や樹勢が強すぎる樹（遅くまで枝が伸びる樹や桃では徒長枝が多く発生する樹）などでは施用を控えるようにしましょう。

収穫が終わった桃園では、9月の防除（バリダシン液500倍＋スプラサイド水和剤2,000倍）にアミノメリット青の1,000倍か尿素の500～1,000倍液を加用し散布しても樹勢の回復が図れます。

●灌水

近年は9月になっての残暑が長引くことが多く、8月に引き続き気温が高い日が続くので、土壌が乾燥し過ぎないように灌水を行います。鉢植えやコンテナ植えでは根域が制限され、地植えよりも乾燥しやすいため、こまめに水やりを行い、水切れには十分注意しましょう。

晩生種の梨では、8月～9月の灌水が果実の品質に大きく影響を及ぼすので、乾燥し過ぎないように注意しましょう。

●台風対策

台風の襲来が予想されるときは防風垣の設置や点検、明きょの点検、棚の補強など事前に対策を行っておきましょう。収穫可能な果実がある場合は事前に収穫しておきましょう。

台風通過時は危険なので園地の見まわりなどは避け、安全な場所で通過を待ちます。通過後は、安全を確保したうえで、樹の状況確認や園地の見まわりを行い、必要な対策を行いましょう。

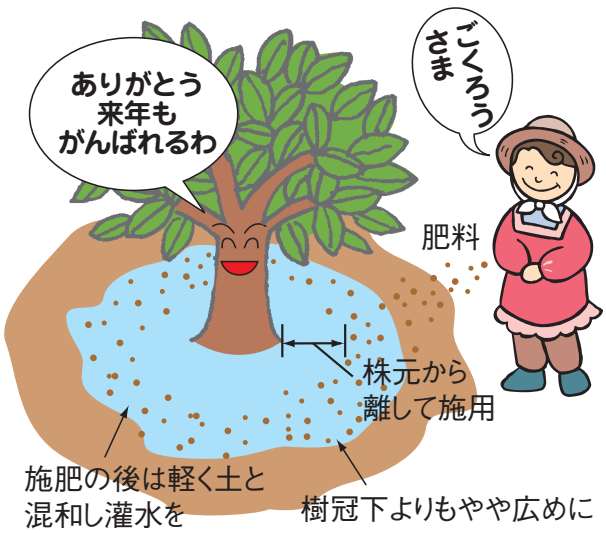
●病害虫

収穫後も園地の見まわりを行い、病害虫の発生を確認したときには必要に応じて防除を行いましょう。これは翌年の病害虫発生密度を低下させるための重要な作業になります。

資料7 今月の主な作業

品　目	作業内容
ブドウ・桃・梨・柿・リンゴ・イチジク	灌水、収穫、礼肥
梅・スモモ・ブルーベリー	灌水
ミカン	灌水、仕上げ摘果
キウイフルーツ	灌水、枝管理
ビワ	灌水、せん定（結果樹）

資料8 礼肥の施用



地域によろこびの種をまく
9
vol.253
2021 September
URL https://www.ja-okayama.or.jp/

四色おはぎ

JA岡山女性部監修
OKOME おこめレシピ RECIPE

材料

<こしあん6個>
<きな粉、青のり、黒ごま各4個>

もち米……2合
うるち米……0.5合
こしあん……180g
粒あん……240g
きな粉……適量
青のり……適量
黒ごま……適量

作り方

①もち米とうるち米は合わせて洗い、2カップの水に2時間浸し、普通に炊く。
②炊きあがったら20分ほどそのまま蒸らし、水でぬらしたすりこぎで熱いうちについて潰す。
③手に塩水を付け、ご飯を18等分して丸める。
④<こしあん6個分>
こしあんを6等分し、丸めたご飯を包む。
⑤<きな粉、青のり、黒ごま各4個>
粒あんを12等分して丸める。ご飯を平らにして粒あんを包み、きな粉、青のり、黒ごまをそれぞれ4個ずつまぶす。

Agrogram あぐろグラム 編集後記

降水量1ミリ未満の日数1位

10年ぶりに改定した気象データの平年値で、岡山県は降水量1ミリ未満の年間日数が全国1位の座を4回連続でキープしたことが県の調査で分かりました。岡山が「晴れの国」であることが改めて裏付けられたと言えます。ちなみに、「晴れの国おかやま」というキャッチコピーが使われるようになったのは、平成元年(1989年)からです。

さんさんと降り注ぐ太陽と清涼な水の恵みをたっぷりと受けた肥沃な大地で、伝統の技や新技術、栽培管理と生産者のこだわりで大切に育てられた農畜産物は、安全・安心で個性豊かな逸品ぞろいです。

編集担当　久山 隆一

発行／岡山市農業協同組合　〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1
発行人／太田　誠一　編集／総務部総務課　TEL086(225)9846